

平成18年度 施策評価シート

総合計画における位置付け等

平成18年 月 日記入

基本目標	躍動し 魅力あふれる交流拠点都市をめざして	施策コード	32620
政策名(章)	第2章 質の高い都市基盤の整備を進めます	評価担当部	土木部
基本施策名(節名)	第6節 下水道の整備と管理	評価担当課	下水道整備課
施策名	雨水対策の推進	課長名	竹田 幹夫

1 施策の目的・概要(目的はわかりやすく記入)

本市では市街化の進展により雨水の流出量が増大し、浸水被害が発生しています。そのため、平成16年8月に策定された「相模原市雨水対策基本計画」の方針に則り、平成17年度～26年度の10年間に、特に床上・床下浸水被害箇所や道路冠水等大雨による被害の解消を目的に、緊急雨水対策事業箇所として132箇所を定め、優先的に事業を進めるため「雨水対策整備プログラム」を作成しました。このプログラムにより溝上大野台、麻溝台地区雨水幹線を中心として計画的に雨水管整備を進めています。

2 事業費・人員

年度	平成14年度(決算)	平成17年度(決算)	増減の主な理由
事業費		2,220,359	大規模雨水幹線及び雨水調整池取得事業が概ね完了し、雨水管の工事本数も減少したため。
人件費		111,171	
市民一人あたりの事業費	5,691	3,496	
合計	3,505,741	2,331,530	

*人件費は、一人あたり H14:839万円、H17:805万円として算定。人口は、61.6万人(H15.4.1現在) 66.7万人(H18.4.1現在)とした。

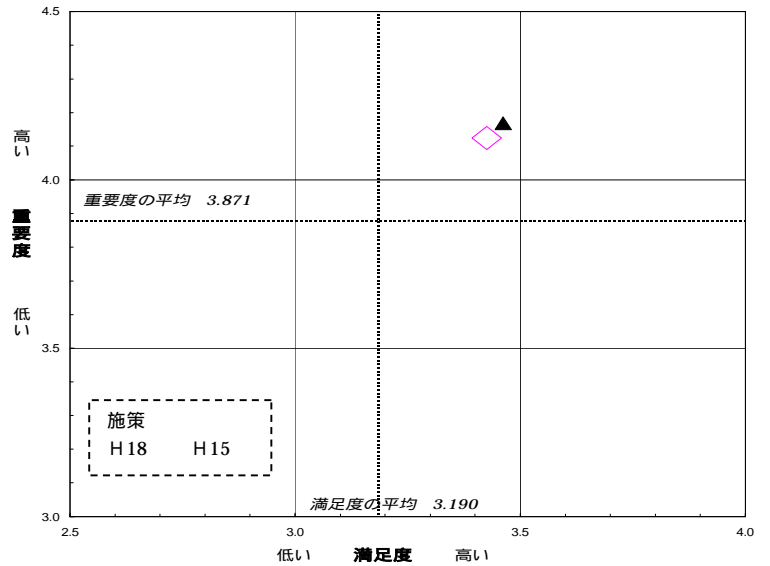
3 成果・活動指標

	指標名	指標の基準値の定義	基準値(単位)	基準年度
指標1	緊急雨水対策事業整備率 当該年度対策箇所 ÷ 緊急雨水対策箇所 × 100	「雨水対策整備プログラム」に定めた緊急雨水対策箇所に対して、当該年度までの累計に対してに浸水被害を解消した箇所の割合	$(42 \div 42) \times 100 = 100.0(\%)$	平成17年度
指標2	床上・床下浸水被害未対策箇所における被害発生件数	上記プログラム中、床上・床下未対策箇所に対して、当該年度に床上・床下浸水被害が発生した件数	1(件)	平成17年度
指標3	道路冠水被害未対策箇所における被害発生件数	上記プログラム中、道路冠水未対策箇所に対して、当該年度に道路冠水被害が発生した件数。	3(件)	平成17年度
指標4				
指標5				

	H17目標値/実績値	中間年度	中間年度の目標値	最終年度	最終年度の目標値	目標値の考え方(根拠)
指標1	42 / 42	19	65	21	73	「雨水対策整備プログラム」に定められた浸水被害解消の目標箇所数。平成26年度までに114箇所を整備予定。
達成率	100					
指標2	25 / 1	19	15	21	13	
達成率	196					
指標3	47 / 3	19	34	21	28	
達成率	194					
指標4						
達成率	#DIV/0!					
指標5						
達成率	#DIV/0!					

4 市民満足度調査結果(平成18年度実施分)

この施策の満足度は3.426で51施策の中で3番目。
 重要度は4.125で12番目である。
 改善要望度は0.0126で24番目である。
 年齢別にみると、満足度は60歳以上で高く、40歳代で
 もっとも低くなっている。
 重要度は60歳代でもっとも高く、30歳代でもっとも低く
 なっている。
 前回調査と比較すると、満足度、重要度ともに施策の順
 位は前回調査と同様である。
 満足度の順位では、前回調査と大きな差はみられず、全
 ての年代で上位10施策に入っている。
 重要度の順位では、20歳代で上がっている。



5 1次評価(3つの視点から評価を行う)

視点の種類	評価基準・着眼点	評価点	それぞれの視点に対して評価の具体的根拠	
有効性	各事業が果たす施策に対する目標の達成度合いを把握し、効果の高い事業を実施している	2 1	大規模雨水幹線の計画的な整備や緊急性のある雨水管きょを優先的に整備することにより、浸水被害地区は着実に解消されています。	
効率性	最少経費で最大効果が得られる事業構成となっている	4 1	コストも含めた総合的な見地から最良の工法を積極的に採用するとともに、国庫補助金の獲得に努めています。また、年次計画の妥当性等、無理・無駄な事業を見直すことにより、経費の縮減を図っています。	
市民満足度	市民満足度調査により市民ニーズを把握し、市民の立場に立って事業展開している	2 1	前回調査結果同様に満足度、重要度ともに高く、床上、床下浸水や道路冠水の解消といった市民生活に直結する事業を展開している。	
合計		10	評価結果に基づく区分(4項目の合計点数による) A(12から10点) B(9から5点) C(4点以下)	1次評価 A

* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

6 課題と解決策(現状または、評価結果から)

課題	
解決策	

7 2次評価及び意見(1次、2次で評価に相違がある場合など、必要に応じて意見を記入)

設定された指標の目標値の水準が甘く高評価となっている有効性の評価が難しい状況となっている。より実情に近い水準での目標設定が望まれる。	2次評価 B
--	-----------

* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

8 3次評価及び意見(評価結果及び課題・解決策について、必要に応じて意見を記入)

	3次評価
--	------

* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

